

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2693500015
法人名	社会福祉法人 京都南山城会
事業所名	グループホーム 涌出ぬくもりの里
所在地	〒619-0202 京都府木津川市山城町平尾里屋敷69番地4 (電話) 0774-86-0565

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】平成 21 年 11 月 20 日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(11 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	76.1 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、大西歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の取り組みとして地域福祉の町作りを目指し地域住民と一緒に作られた当該ホームは、小規模多機能事業所と併設されています。日々の暮らしを地域とともに協力しながら、地域行事に積極的に参加し、ホームでの餅つき大会では年々多くの方の参加があり、喫茶コーナーを開放して気軽に立ち寄ってもらえるように努力されています。職員は、利用者本位の生活を取り入れ、やりたい事に携わってもらい出来ることは利用者自身で取り組み、散歩や体操、掃除を通じて自然と介護予防の働きもしています。また、ターミナルケアにも積極的に勉強会や研修に参加し、その人らしく生きていく為の生活を支え、その時の状況に応じた支援ができるように取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、理念をわかりやすくしたスローガンを利用者に毛筆で書いてもらいリビングに掲示しました。また、毎回の食量や水分量を記録するなど出来ることから改善に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価は、全職員に配布し記入してもらったものを介護支援専門員が集約し管理者が確認し記入しました。職員は記入する事で項目について理解し、再確認することができました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	併設されている小規模多機能と合同で2か月に1回開催されています。家族や市の高齢課課長、民生児童委員、地域包括支援センター職員などが参加し、利用者やホームの状況を報告し毎回テーマを決めて勉強会などを兼ねて行われています。また、参加者からの意見や現状を市長にも解ってほしいとの要望があり市長の参加を要請しています。活発な意見のやり取りがなされ有意義な場となっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	来訪時や家族会、運営推進会議などに参加があり直接意見や要望を聞いています。年に1回、満足度調査を行い結果は、家族会や運営推進会議で報告しています。また、玄関に意見箱を置いています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とのつながりを大切に多くの行事に参加しています。敬老会や涌出宮神社での祭りに準備段階から参加し屋台を出展したり、小学校での運動会や学習発表会などの招待、子供会主催のラジオ体操の場所として開放、餅つき大会ではポスターを掲示したり声掛けをして多くの方の参加があり積極的に地域との交流をしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の基「一人ひとりに寄り添って」をホーム独自の理念としています。地域の協力を得て開設されたホームで楽しく生活が送られるようにとの思いを込めて作られました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を解り易くしたスローガンがあり、リビングに利用者が毛筆で書かれ掲示しています。会議やカンファレンスで理念について振り返り話し合う機会を持ち、申し送りノートで職員は共有しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏休みの子供会主催のラジオ体操の場所として玄関前を開放し、隣接する涌出宮神社のお祭りでは屋台の出店を引き受けています。小学校の運動会や学習発表会への招待を受けたり地元の敬老会へ参加しています。ホームでは、餅つき大会に地域の方々に声掛けし多くの方の参加があるなど、地域交流が活発に行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、全職員に配布し記入してもらい、介護支援専門員が集約し管理者が確認しました。職員は記入する事で項目についての理解を深める事が出来ました。前回の改善点については、理念を基にしたスローガンを掲示したり、毎回の食分量や水分量の記録をするなど取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模化機能事業所と合同で2か月に1回開催しています。家族や市の高齢介護課課長、民生児童委員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの状況を報告を行い、テーマを決めて勉強会を兼ねるなど活発なやり取りがなされ有意義な場となっています。参加者からの意見で現状を市長にも解ってほしいとの事で次回市長の参加を要請しています。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加や市主催の催しに参加して、情報交換をしています。気軽に何でも相談し市とホームが1つになって取り組み関係が築かれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人全体の「里たより」やホームの「涌出たより」を毎月発行し、利用者の写真や担当職員からのコメントなどを報告しています。金銭管理は立て替え金で請求書と一緒に報告しています。また、来訪時には直接コミュニケーションを取り、何かあれば電話で報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族会、運営推進会議に参加があり直接、意見や要望を聞いています。年に1回、満足度調査を行い結果は家族会や運営推進会議などで報告しています。また、玄関に意見箱を置いています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はほとんどなく、異動は最小限に抑えています。法人や管理者と面接があり相談や悩みなど話ができる機会を持ち、福利厚生の実がなされています。全職員が常勤雇用で、やりたい事に取り組める体制を持っています。新任の入職時には、ベテランの職員がつきあわず馴染めるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画があり、委員会活動を中心に2か月に1回の研修があります。ホーム内では事例検討や伝達研修を行っています。また、全職員が年に1回は必ず外部研修に参加し、資料を残し報告書を提出し伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で定期的に事業所の相互訪問を行い、利用者も交えて行事等と一緒にしています。介護支援専門員を通じて介護事業所との交流や市内のグループホームとの交流ができるように市の協力も得ながら呼びかけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	小規模多機能を利用していた利用者が入居となったこともあり、利用者や家族に見学に来てもらい体験入居も可能で納得した上での入居になるようにしています。入居後は、家族の協力も得ながら利用者の話を十分に聞き、コミュニケーションを多く取り少しずつ馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは日々一緒に生活する中で、コミュニケーションを大切に利用者を尊重し理解して何でも話し合える関係づくりに努めています。今までの経験の中から料理や家事、華道など多くの事を教えてもらっています。また、夜勤の時には「がんばってるね」の声をかけてもらうこともあり職員は励みとなっています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のアセスメント表を使用しながら利用者から多くの事を聞きながら担当職員が情報の収集をしています。入居前の情報の収集を課題にされ、家族からの入居前の情報を聞けるようにしたいと考えています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居後暫定の介護計画を立て、カンファレンスで話し合い家族の希望も聞きながら一人ひとりに合った介護計画を完成させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定期間を見直しの期間としていますが、ケアプラン行動実施表を毎日記入し、担当職員が毎月評価してカンファレンスで随時見直しをしています。また、医師からの意見や職員でもある看護師の意見を取り入れ介護計画に反映しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない急な通院介助や買い物、行きつけの美容院への送迎を行っています。食べたい物を食べに行くなど出来るだけ希望や要望に応じて支援できるように心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続しています。利用者ごとのかかりつけ医の往診が毎月あり、24時間何かあれば携帯電話で連絡が取れ指示をもらっています。また、職員に看護師がいる事で安心した健康管理がなされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書にホームの方針を記入しており、入居時には家族に説明し同意を頂いています。重度化されたり終末期になってもその人らしく生きていく為の生活を支える事について職員と家族、医師等と話し合い方針を共有し、協力も得ながら支援しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや身体拘束について職員会議で話し合っています。気になる事やアンケートをもとに話し合い改善に努めています。また、個人情報の記録物は事務所やフロアーの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の掃除や体操は職員からの声掛けを行っていますが、利用者は自由に参加されています。昼寝をしたり、皆で手仕事をするなど、起床から睡眠まで利用者のペースやリズムに合わせて過ごされています。		

グループホーム涌出ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は食材屋から配達される献立ですが、朝・夕は利用者の希望も取り入れながら職員が立て、一緒に買い物に出かけています。米とぎから盛り付け、下膳まで利用者の出来る事に携わってもらっています。懐かしい音楽を流し職員も同じものを頂き会話も楽しみながら楽しい時間となっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きの入浴としていますが、毎日準備しており希望があれば毎日の入浴も可能となっています。入浴拒否傾向の利用者には時間を変えたり職員の工夫した対応で気持ちよく入れる様にしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝は利用者に掃除をして頂いています。掃除機やモップ掛け、手すり拭きなど出来る事をして頂き、共に生活をしている実感に繋げています。新聞を読んだり、居室で趣味の習字をするなど一人ひとりが楽しみを持ち過ごされています。日帰り旅行を計画し家族も一緒に楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに隣接する涌出宮神社は鎮守の森となっていて、気軽に散歩する良い環境が整っています。買い物や季節のお花見、外食、図書館、ドライブなど出来るだけ外出ができるようにホーム全体で取り組んでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けずセンサーでの対応をしています。家族には説明し、職員は研修を受け見守りを怠らず居場所を確認し鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いのもとに、昼夜想定して避難訓練をしています。運営推進会議で話題にして話し合っています。	○	運営推進会議で話題にされていますが、協力体制についての働きかけには至りませんでした。更に近隣住人の方々にも避難訓練等の参加の声掛けをされ、ホームを知って頂く機会にされてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎回記入しています。法人の管理栄養士に見てもらいアドバイスや指導してもらっています。多くの食材を使いながら利用者に合わせた粥や好みなどに応じた食事を提供しています。また、いつでも水分補給ができるように各テーブルに急須を置いています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこにいても日当たりがよく明るい共用空間で、温度や湿度に気を配り加湿器の設置があり、リビングに入ると手作りの大きなカレンダーや各テーブルに季節の花が飾られています。廊下には椅子やソファを置き一人でも利用者同士でゆっくりと過ごせる空間があり、窓から見える竹林や畑での作物、花の成長が見え季節がわかるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の一軒家として木の表札を掲げています。クローゼットと洗面台が設置されており、観葉植物やぬいぐるみ、時計などを飾りベッドや仏壇、炬燵、ソファ、チェストなど家族と相談して今まで使っていたものを持ち込んでもらっています。		